平成３０年度　きのさき見て歩き　　第３回

実施日　　平成 30 年 11 月 14 日（水）　10：30～14：00
場　所　　城崎庁舎　→　海神社（車窓から）→　絹巻神社　→港地区コミュニティセンター（昼食）→
　　観正寺　→　城崎庁舎
　　オプション（希望者のみ）　旧城崎消防署あとの CAFE&GALLERY「ＵＴＳＵＲＯＩ」
講　師　　坂田　文一郎氏　（城崎文化協会会長）
内　容　　気比地区は大正元年に気比の南端海岸から 800ｍの地点で銅鐸が発掘されるなど古くからの
　　歴史を持つ地域である。今回は気比地区に足を延ばしてその歴史や地形を見る。
　　絹巻神社　花光宮司や観正寺　田中住職にも講師を依頼しお話をうかがう。
　　※今回は城崎から港大橋までの道幅が狭く多人数で歩くのが危険なため車での移動とした。

＜絹巻神社＞

絹巻神社　花光　亮宮司から神社の沿革、由緒についてお話しいただく。

絹巻神社はもと絹巻山の頂にあり、気比地区はここで行き止まりであった。城崎からは渡し船を利用して参拝しなければならず、地続きの久美浜、丹後からの参拝者が多かった。絹巻山の山裾は渚になっており、シジミやハマグリが採れた。かつて神社の参道は 300ｍほどもあったが、昭和 29 年に橋ができ、その後何回か橋が架け代わるたびに境内地も変遷し、平成 20 年に今の場所に社殿が建てられた。神棚は全国的にも珍しい北向きの神棚であり、これは海を守るために海の方角を向いたためである。

絹巻神社は氏子神社ではなく、氏子をもたない崇敬神社であるが、氏子神社と同じように地域の人々に支えられ、人々の生活と密接に関わってきた。昨年は絹巻神社と地域が一体となり、御本殿再建二百年式年祭が盛大に行われた。

絹巻山の暖地性原生林は県指定天然記念物になっており、温帯、亜熱帯の樹種が豊富に自生している。

また、山の岩肌は、絹巻という言葉の名前の由来にもなっているように、反物を積み重ねたような玄武岩の柱状節理が見える。

＜観正寺＞

観正寺（臨済宗　南禅寺派）　田中　俊雄住職から、寺の略歴をお話しいただく。

文化４（1807）年に岩崎　清光が作った枯山水の庭園は平成 26 年に県史跡天然記念物（名勝）に指定された。

・オプション　＜CAFE&GALLERY「ＵＴＳＵＲＯＩ」＞

この施設は、市が旧城崎消防署の有効活用のため公募型プロポーザルを行い、温泉街の賑わい創出のため生まれ変わったもの。

館長の山田　一輝さんから、「ＵＴＳＵＲＯＩ」の名前の由来（消防署が CAFE&GALLERY に代わる歴史の移ろい、館内に展示されている城崎出身の日本画家山田毅氏が描かれた四季折々の風景の移ろい、ご自身が思いがけず CAFE&GALLERY の館長となられた人の移ろいの意味を込めた）や、山田毅氏の絵について説明をお話しいただく。館内に吊り下げられた照明は城崎の灯篭流しをイメージされたものだそうだ。